

コンテンツ 都内にオトナが没頭してたのしめる絵画教室があったんです。

パラドックスのアトリエ教室、いってきました!



学芸大学駅にあるパラドックスが運営する絵画教室「Visions Palette」。現役の東京藝大生講師による、右へ做えのきれいな絵を描くためではなく、自分の「やりたい」と出会うための場所。最近、大人向けの教室も始まったということで、内定者の宮原さんと共に、広報チームが体験教室に行ってきました!

体験教室の流れ

- 1 簡単なヒアリングを通して、鉛筆・木炭デッサン、水彩、粘土、木工など表現方法を決めます。今回はりんごの鉛筆デッサンに決定!
- 2 描くまえにデッサンの基本的な題材となるりんごの説明を受けます。手に取り、構造を想像しながら、りんごを理解していきます。
- 3 いよいよ描きはじめます!ときどきアドバイスをもらいながら進めます。没頭……。
- 4 書きはじめて!時間半ほどで、描き上げます!最後に講評をいただいて終了!



Visions Palette

〒152-0001 目黒区中央町2-40-9

営業時間: 11:00~21:00

www.visions-palette.com/



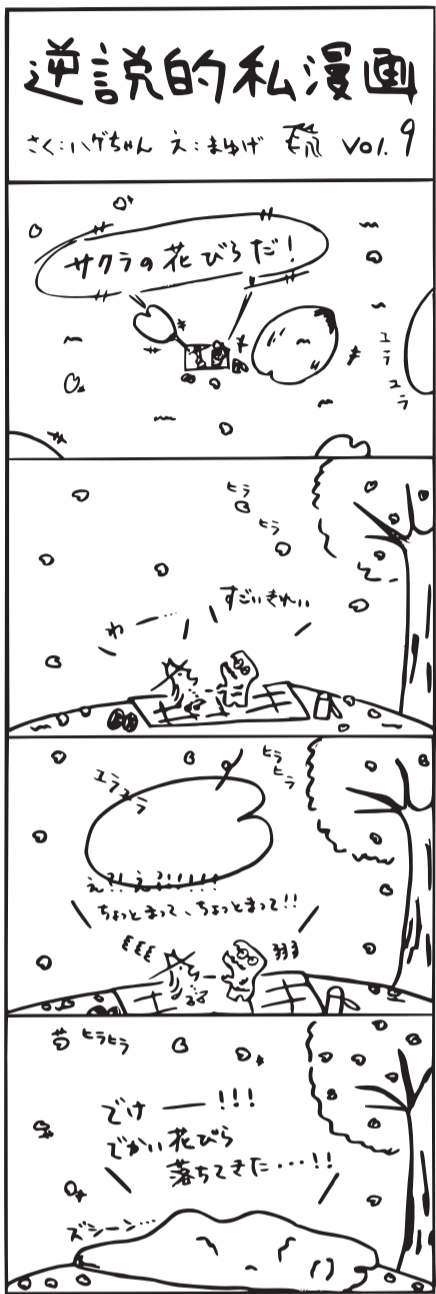
内定者・ミヤハラくん

とにかく、講師の皆さんのアドバイスや講評が印象的でした。絵を通してその人の本質を解き明かしていく感じがして、神秘的な気分になりました!(笑)

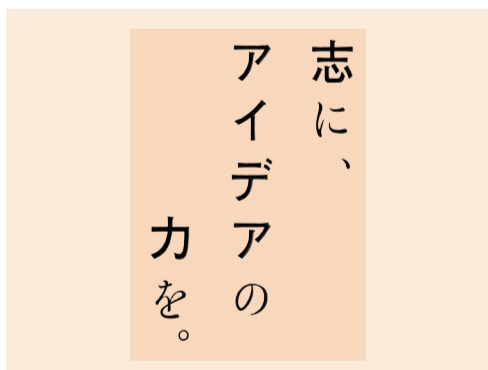


PDPR・ヨシヤマ

初めてのデッサンでしたがいいところは褒めてくれるしちゃんとアドバイスもくれます。自分でも不思議なくらい伸び伸びと自由に描くことができました!



ニュース 採用サイト、オープン。



▲これから随時コンテンツが更新予定とのこと!

ニュース 2017年のキックオフ社員旅行は台湾! 前回のセブ島以来なんと10年ぶりの海外です。 どうして台湾なのか?なにをするのか。 今回のキックオフの企画者である総務の岡村さんにお話を聞きました。

今年のキックオフは全社員で台湾へ!

広報 さて、毎年恒例のキックオフ。昨年は沖縄でしたが、どうして今年は台湾に?

岡村 下期に皆さん頑張っていたので、存分に英気を養っていただこうと、いつもより奮発しました。候補地はいくつかあったのですが、海外での学び、しっかり楽しめることなど考慮した結果、台湾となりました。

広報 ずばり、今回の目玉を教えてください。

岡村 目玉は2つの研修です。1日目は、せっかくの台湾なので、台湾の街を舞台に、チームで頭も体もフル回転で取り組んでいただくワークを。4月からの新チーム

で、ぜひ協力して乗り越えていただきたいです。2日目は、人間学を学ぶ月刊誌「致知」さんの研修を行います。

広報 他にも、お楽しみポイントなどありますか?

岡村 実は今回は海外ということもあって、旅のしおりをかなりちゃんとつくっています!街の地図から、おすすめのお店やお土産など、充実したしおりとなりますのでぜひ活用してください。あと最後に、コーポレートとして!寝坊しない!飛行機に乗り遅れない!携帯やPCをなくさない!変なものを食べない!これだけは、しっかり気をつけてくださいね!

知っておきたい台湾の豆知識。

- 「地下鉄内での飲食は禁止」
→罰金!最悪、逮捕!
- 「お持ち帰りOK!※食事」
→「ターボ」でググってください!
- 「トイレの紙は流しちゃダメ」
→便器の脇にあるゴミ箱へ!

自分は何のためにコピーを書いているんだろう?何も教えてくれない先輩を呪い、センスのないCDを呪い、何より、1ミリの才能もないくせにこんな難しい職業を選んだ自分を呪った。呪詛のような日々から救いを求め写経していたのが、優秀なコピーがたくさん掲載されている東京コピーライターズクラブ年鑑(TCC)。そこで不思議な名前のプロダクションを見つけたのです。(パラドックス)大量消費される制作物と違い、派手さはないが血が通っていて、心が動かされるクリエイティブと感じた。へー!こんなビュアなものつくってる会社もあるんだ。気づけば二十六歳になっていた私。暗すぎるトンネルで、懐中電灯すら持っていない。一縷の光を求めて、転職用の作品をまとめ始めました。

私が必死に取り組んでいたのは、通称「当て駒」と呼ばれる仕事でした。私のCM案は、内容はどうでもよく、競合コンペの体裁のために必要なだけ。代理店の営業力でコンペに勝った後、本番のCMは代理店のクリエイティブチームがガッツリ予算をかけて制作する。そんな流れの仕事でした。「当て駒」だったなんて、知らなかった。上司も教えてはくれなかった。ああ、そうなんだ。ここを華麗にスルーして「次こそは僕らのCM案が採用されるかも」と仕事に励むのが、小さいプロダクションの実力のない人間のお作法なんだ。大学を卒業して幸運にも手にしたコピーライターという肩書きが、急に痛々しく、虚しいものを感じました。

「もうこんな仕事いやだあああああ!!!」深夜タクシの窓から叫んでいた、二十四歳の私。新卒二年目の夏。広告プロダクションで働く私が必死に取り組んでいたのは、大手代理店からのCMの競合コンペ。営業さんから依頼を受け、徹夜で考えた案をご提出。「最高!この案で通ります!」という営業さんを見送り、ドキドキしながら結果を待ちました。

中堅社員が綴る暗黒時代。そして、光が見えた瞬間。



第9回

田村ダン (前編)



① 今、オフィスでHOTなことは？

「ミスター志・真本」自身が、大阪のHOTなトピックス。ラウンジを訪れる学生に志を振りかざし、志を語り、志を注入していく。やがて志の海に溺れ、志に酔う「志ジャンキー・真本」となる日は近い。



大山 ADFEST (写真) へ！中島 THE 痔エンド！海野合コンでモテモテ！江藤カカト美人へ！



学生からの内定報告。集客の自動化。
しゃぶしゃぶ温野菜。
内地に出て行く人々の見送り。
証人喚問……。たくさんあるけど、WBCに夢中でした！

② エリアのオフィス自慢は？



JR大阪環状線が望めるオフィスからの絶景。電車と真本がワンフレームに収まると、鉄ちゃんになる。

天井が高い。テラスがある。社用車がある。
あとは何と言っても、
ラーメンが美味しい！
魚も美味しい！
というか、ご飯はほぼ美味しい！！



パブリックビューイングで社員はもちろん、学生のみなさんたちとWBCを観戦して大盛り上がり！

③ 4月から加わる新メンバーに一言！

パラドックスは本社だけじゃない。
大阪だって10人います。
大阪に来る際は、ぜひお立ち寄りください。
真本の志を
浴びに来てください。

よかくさ！

*博多弁で「大丈夫！気にしないでいい！」
「なんとかなるさ！」という意味。

なんくるないさ！

*これはみなさんご存知。

イベント パラドックスが携わったイベントに広報チームが参加してきました！

3月16日、東京都茅場町駅最寄りの平和ビルで開催されている「スーパー浮世絵 江戸の秘密展／食神さまの不思議なレストラン」に行ってきました。なにを隠そうこのイベント、パラドックスが企画やプロモーションに携わりました。そこで、広報チームのシマノとヨシヤマがイベントを体験して来たので、そのレポートをおとどけします！じゃかじゃん！



いざ不思議なレストランに入店。江戸をカラダで理解する。



いざ、不思議なレストランへ入店！入り口にある立派な赤い暖簾は今回のイベントのために特注した西陣織とのこと。ここでの見所はなんといっても、マドンナやサグラダファミリアのプロジェクトマッピングを成功させた、カナダの芸術家集団「モーメント・ファクトリー」による体験型アート。来場者が触れたり、体を動かすことによ

て反応するインタラクティブな作品を楽しむことができます。体験型アートを存分に楽しんだあとは、お待ちかねの食事の時間。料理旅館「野草一味 美山荘」中東久人さん監修の和食です。時期によってメニューが異なるそうなので、一度行った方も新メニューを食べにもう一度訪れてみてはいかがでしょうか。(担当：シマノ)



「まるで今にも動き出しそうだ。優れた絵画を評するときに、よく聞く表現があります。その言葉を本当に実現させてしまったのが、「スーパー浮世絵 江戸の秘密展」。静止画の中には感じにくかった、人の動き、活気、風、音などが、立体的かつ等身大に再現されることで、まるで絵画の世界にそのままダイブするような体験ができます。

百聞は一見にしかずというように、どれだけたくさんの資料を見るよりも、カラダを使って江戸の町を体験するほうがより理解できるものです。展示を見た後は、静止画の中にも不思議と動きを感じられるようになり、浮世絵の存在がぐっと近くなりました。浮世絵へのイメージが変わってしまう今回の展示、ぜひ一度！（ヨシヤマ）



▲ 特注でつくられた西陣織の暖簾。



▲ 店員さんのエプロンには食神のシンボルが刺繍。



▲ 北斎の海も、はげしく荒れています！



▲ 多色刷りを、色の層で解体しています！